



Title	吳山社と吉田先生
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷徳. 1975, 45, p. 48-48
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90530
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

吳山社と吉田先生

酒井全太郎

懷德堂教授吉田先生は謹嚴篤學の儒士であつた。常に出勤されると素讀生に素讀を教へ週回何かの講義をされて、遅く歸宅される習慣であつた。當時は豊後町に堂があつたので、そこから徒歩で電車に乗られるために聽講生數人と共にして本町の電車停留場まで、何かと種々の話をききつつ別れたのであつた。北京より歸朝された後、引きつづき御出講下さつて、論語や、水滸傳などの講義をされたのであるが、これは主に白話で原文を讀まれたのであつた、これは新機軸であつた様に思つた。

その間先生は主宰者となつて吳山社を始められた。昭和五年五月二十一日池田の大廣寺退老堂に盟友を結集して吳山社の第一回の雅會が開かれた。その後毎月一回の集會を持つに至つた。そして會の世話は先生獨りが専ら當られて居つた。因みに初めの結集時の雅友は中井黃裳・岡山雲介・西田樗堂・林田炭翁・吉田北山の五士であつた。その雅會の間にこれに參會した詩盟は凡そ三十餘名を名簿に記されて居る。この長い間に含山社謄録を

編纂して頒布の勞をとつて下さつた。

そして吳山社の名は江戸時代に田中桐江が池田に吳山社を創つて池田の文化に資したのに因むのであつた。この拙文は吉田晉氏の記事中吳山社の項に應じて記したものである。

又含山社の詩盟は凡そ、次の諸士であつた。

高橋虛庵、小原蘇谷、弘末楚山、中尾抑處、酒井鳴谷、藤本碩石、湯川鳥山、佐野碧玲、春原玉英、松田臥雲、白井文溪、林田瓜牛、森 針渠、山本楢信、多田岑影、高橋策山、益滿素堂、末永夕秀、丸山朱樓、田中翠江、山崎春崗、平田二松である。

岡野廉平翁を送る

木村英一

岡野廉平氏は、大正十一年一月一日に懷德堂記念會の幹事に就任されてより、今年に至るまで實に五十三年の長きに亘つて勤續され、昭和三十七年四月一日以來は評議員をも兼ねておられた。本年八十歳の高齡に達せられたのを機に、五月末日を以つて一切の公職を辭され、郷里に退休された。思えばこの半世紀の間、堂に出入した